

2018年6月30日
常葉大学瀬名キャンパス
日本言語技術教育学会
第28回静岡大会
アンケート

- 注1 参加者145人、アンケート25枚。
1～25の番号をつけ項目ごとに表示
しました。
- 注2 表記は明らかな誤字を修正した他
は、記述通り。

【授業Ⅰ 「リクエスト給食のメニューを決めよう」の提案授業とその検討】

(1) 授業Ⅰ (授業者：小川智勢子)

- 1 授業の最後に子ども達は「楽しかった。またやりたい」とふり返ってっていたが、子どもはこの時間で何を学んだだろうか。先生が評価していたのは声のおおきさと一回で聞き取ることだったが、子どもはそれを自己評価できただろうか。自己評価するための基準もなかったように思う。また、話す技術をシナリオ教材から学ぶとしたら、どの伝え方がどういう点で良いのか、子どもが気づいていなければ、また子どもの中におちていなかったら、次に生かせないと思った。それは汎用性のある資質・能力にはなっていないのではないか。
- 2 話し方(聞き方)がみるみる変わるのが参観していてよくわかりました。惜しむらくは、子ども達がどの程度実感をもっていたのか(評価)把握しなかったです。
- 3 シナリオ教材として扱うことで、どの子にも力の保障ができる授業だと感じました。
- 4 「誰の」リクエスト給食なのかがはっきりすると、子どもがメニューを考えるとともに、目的意識が明確になったと感じる。また、聞き手にも目的意識を待たせるために、あらかじめ話し方のよかった点を見つけないことを伝えておきたかった。「全員」に聞こえる声とは、誰に聞こえればいいのか。会場の人も巻き込んでも面白いと思った。
- 5 「話し合いの練習をする」ための話し合い(アとイを決める、役割分担等)が子どもの真の「話す・聞く」の姿であったと思う。
- 6 「話し合い」のシナリオではない。指定討

論者がこれは「司会進行」のシナリオと言っていたが、指導案にそんなことは書いていない。正確な発言をのぞきたい。

7 やや形式的ではあったが、話し合いの方法を示すモデルを作ったひとは良かったのではないか。

8 話し合いの型、そして司会の経験、どれもクラスの中の学力が低い子達にとってはとても大切なことだと思う。これをどう生かしていくかは難しい。……

10 全員参加型の授業で面白かった。このあと、どのようにすると、子どもが話し合いができるような授業になるか興味深い。司会のしかたの基本的な練習だという学習は効果があると思った。子ども達が楽しそうにやっていたのが印象的だった。

11 評価が主観的なものになってしまうのでは、と感じた。特に「話を一回で聞く」という評価は、手を挙げられたからできたとは言えない。簡単にメモを取らせるかしないと。

12 とても参考になり、また次の授業でやってみようと思います。

13 シナリオ教材を用いることで、ある程度条件を制御して課題を扱えることが出来て子どもが堂々と発表できていたと思う。

14 司会の仕方の基本を学ばせる授業で、シナリオがとても効果的だった。子ども達が楽しそうに話し合いをしている様子がよくわかった。全員参加できる話し合い、発表であり、大変よかったですと思う。

15 ①セリフ型の指導、板書計画が提示され、大変わかりやすく、持ち帰ってすぐに追試ができると思いました。②「決めたい」「話したい」という意欲がわきシナリオがあるので安心して発表できる良い教材だと思いました。③代表の子だけでなく、全員が同じくらい発表できて、すべての児童の話す力の育成を保証できると思いました。④集中して聞き挙手するとメニューが決めるので「聞く」態度を養うためにも大変良い流れでした。

16 モデルの提示の有効性はよく分かる。しかし、モデル文の提案はずっと昔から提案されている。その差異がよく分からなかった。現代の子どもたちに必要な資質・能力をもっと考えた授業づくりが我々に求められている。

18 型を示すことで誰もが参加でき、他単元・他教科に応用できることと実感しました。その時間に何を習得されるのかがぶれないことが大

事だと感じました。

20 それぞれの理由から意見を出し合って決めていく「話し合い」とは別に「話す・聞く」に焦点を当てた授業は、これからの「話し合い」基本形になっていくものだと思います。

21 シナリオ教材を用いて、わかりやすく、どの子参加出来る授業でした。話し合いの型を習得することはできたかと思えます。めあてが達成できたかが課題だったかと思えます。紙があったので聞き手の方を向くのは難しく、一回で正確に聞く、というのもアとイだけ聞き取ればいいので、どうだったかなと感じました。

23 話す・聞くの基本は、大きな声ではきはきと話す、ポイントを押さえて聞くということなんだと改めて思いました。書く単元でもそうですが、話す聞くも進度の差が出やすいので、それをどう埋めるかが、考えなければいけないと思いました。また誰に向けて話すか目的についても日々の授業で考えていきたいと思いました。

24 まだ2年目なので、子どもが話し合いで生き生きとしていたことが一番すてきだったと感じました。グループで役割をつけることで、全員参加できると感じた。高学年でもできるというなと参考になりました。

(2) 提案授業の検討

(司会：今井東、授業者：小川智勢子、登壇者：佐藤康子、富樫忠浩、増田泉)

3 授業の中での話し合いとはどのような活動をするのか、どんな力をつけさせることがよいか、考え方が広がりました。

4 授業のねらいに沿って考えると、極端に言えば教師が全てのシナリオを作ってしまうこともできる。子どもはそのシナリオ通りに聞こえる声で話す練習をする。「話し合い」なのか、「話し合いの練習」なのかをはっきりさせることが大切ではないか。

5 「話す・聞く」は、言語技術の最たる活動であると思う。協議では、「話し合い」の技術についての話題が主だったが、「型」がなくても話し合いができる姿を目指したいと思った。

6 概ねよい。

7 「意見の出し合い」と「話し合い」は違うのは、当たり前なようで陥りがちであると思う。では、何を意識して話し合い活動をすればいいのか。

8 確かに説得・納得は大切だと思う。学習指

導要領の内容がもっとわかりやすくなってくれればいいと感じた。

10 「話す・聞く」の検討会は、シナリオ教材の是非にしばって、司会が進めていたので分かりやすく、フロアからの意見が多様でおもしろかった。いろいろな考え方があると思ったが、個人的には、今日のような教材を自分もやってみたいし、開発していきたい。※話し方の技術をいろいろ言っていた登壇者の中に、時間を過ぎて話していた方がいたのが気になった。

13 繰り返し、積み重ねが学習できて、レベルアップが図れる教材であったが、グループ内でのやりとりを保障できていないと私も感じた。

14 話し合いの基本を大切にして、子どもたちに力をつけていこうという考えと、質問や意見などを入れて練り合いを重視する考え方と二つの方向性が出されたように思う。一部のできる子だけが大人顔負けの発表をするのをよしとするパフォーマンス重視の授業より、今日のような全員の子が参加し、地道な力を確実につけていける授業の方がよいと思った。

15 ①鶴田先生のように、「話し合いをさせるべき」という先生は、すべての児童が話す技術を身につけているという前提で考えていると思いました。実際には自信をもって話せる子が少ないことを考えると、増田先生の発言のように全員が司会を経験し繰り返し行い、基本から始まってレベルアップしていけるすばらしい授業だったと思います。発表させる中で評価し、身につけさせていく方法もすばらしいと思いました。

18 発達段階に応じて、基本から応用までと作りかえることのできるシナリオは効果的であると感じました。使える教材として成り立たせるには、まずは子ども達に何を教えるかが大切になると感じました。

19 4年生に対して、どこまで求めるかが重要だと思います。教師を含めての「言語環境」や「学習用語」の整った富樫先生の授業、学習、学級の様子がとても気になりました。見てみたいと思いました。

21 質疑応答の時間はたしかにほしかったなと思いました。「話し合い」になっていたかという話もありましたが、それぞれの意見があり、考えさせられました。「練習」という意味では目標が達成できたかなと思います。

22 我が校の実態に合わせると、さらにスモールステップの授業3時間計画で行いたい。

23 話し合いの段階について深く考えさせて頂きました。国語の授業を通して他教科、日常での話し合いにどうつなげていくのが大切で考えていきたいと思います。

24 司会の進行をシナリオ教材を使って実際にやることは必要だと思いました。進行表を元に進め方を覚え、違う所で実践することで力が付いたと言えるのではないかと感じました。話すことが苦手な子にとっては受け身になることなくできる活動であったと思います。ありがとうございました。

【授業Ⅱ 「新商品のよさを伝えよう」の提案授業とその検討】

(1) 授業Ⅱ (授業者：中村麻里那)

1 やることが明確で大変わかりやすい授業だったように思う。

2 分かりやすい二つの商品の比較という活動をする上で、考えるべき材料があり、モデルがあり、どの子にも達成感のもちやすい展開であったと思います。

3 子どもが「作文って楽しい！」と感じられるような授業であったと思います。楽し異と思えるからこそ力もついていくと思います。

4 クランキースリムパックの二つの作文例を提示したことで、子ども達は自分のPR文に伝えるための技を作ってみようと感じながら書くことができたと思う。子どもの書いた文章を是非読んでみたい。

5 新商品について分析する文と、伝える文とでは表現が異なってくる。今回は伝える文なので相手意識、目的意識をもって表現することが重要だと思うが、「家の人に新商品を買ってもらうため」という設定？はいかなものかなと思った。

6 とてもよい。対比的思考はとても大切である。

7 モデル文の一つではなく、グッドとバッドの二つ用意していたことがすばらしいと感じた。

8 相手意識が明確で子ども達もとても意欲的に取り組んでいた。モデル文(グッドとバッド)は是非資料としてフロアにも欲しかった。

10 「接続詞」について、児童が発言した時に取り上げていたが、「接続詞」として「なので」を使っていた。現場では、「なので」という口ぐせを直したいと思っているのに、言語技術の

大会として残念だった。「よさを伝える」文章は、どこをどのように書けばよいのかという視点が曖昧だった。思いつきを書いておもしろそうな子が評価されるのが気になった。

11 子ども達にグッドモデル文、バッドモデル文とを比較させることで、書き方の例をみんなで共有化し、自分で書いてみるというのは、大変良いことだと思います。私も心がけて授業しています。

12 子どもの反応がよく、目的は達成できたように思います。

13 題材選択が非常に素晴らしいと感じた。また、例文の提示、その比較もとても効果的である例文があることで200字のPR文を子どもがスラスラ書けたと思う。

14 お菓子の新旧商品の比較という子どもの興味を引く題材を用いたのが面白かった。論理的文章の特質にもっと目を向けて授業だとさらに良かった。接続語よりキーワードや構成に目を向けた方がよいと思う。

15 ①サンプル文はプリントで配布した方がわかりやすいです。いきなり児童に音読させるのは難しいと思います。②サンプル文が長くてわかりづらいので、もっと「〇〇がいい」「理由は…」「ぜひ…」という文章のパターンやキーワードのメモがないとかなり難しいと思いました。「PR文を書く時に気をつけたいこと」は、「めあて」なので教師が提示すべきだと思いました。③新商品の「とくちょう」がワークシートにあるので、文章をまとめる練習かなと感じました。

18 子どもの興味にあった教材だったと感じました。ただ、お菓子ということで子ども達の関心が違う方向にってしまう心配も感じました。新商品のよさを考える上で複数提示より、一つのを考えてから広げていく方が応用できるのではと思いました。

20 二つの「商品」を比べる、二つの「文章」を比べるなど、「比べる」所が授業にたくさんありました。教材のおもしろさ、展開のおもしろさがあり、引きつけられました。

21 身近なお菓子を題材にしているわかりやすいなと思いました。また先生がグッドモデル、バッドモデルを提示されており、自分の作品に生かせるのではと思います。中学校の先生とは思えない対応をされており、とても参考になりました。

22 書いている様子を映像で見せてくれるとよ

りわかりやすい。できれば、映してほしい。作品を読む時間をとると、35分授業くらいが適当ではないかと思いました。

23 目的意識をもたせること、できれば身近な物（大前提として子どもとのつながり）が、子どもをやる気にさせることを学びました。とても楽しく学んでいる子が多かったと思います。

24 二つの例文の提示は子ども達の「書く」ヒントになったと思いました。何もない状態でPR文を書くとは、書くことができる子とできない子との差が激しくなると感じました。

（２） 提案授業の検討

（司会：柳谷直明、授業者：中村麻里那、登壇者：大内善一、篠原京子、長谷川祥子）

1 教師がモデル文を示すことは大切であると改めて感じた。グッドモデルとバッドモデルを比較することで取り入れるべき技術が子どもにとって分かりやすくなったと思う。

3 書く指導をしていく上で対比的、論理的、オーセンティックであることもこれから必要になることが分かりました。

4 根拠、理由、主張、条件、家の人に向けて？会社の人になって？

5 授業者は「対比の思考」を身につけさせるために「書く」のであると言っていたが、最初から「比べなさい」と新旧を与えられる場面ばかりでなく、例えば「新」のみを示され、「旧はどうだったのか」と自分から比べようとする態度を育てるような場面にしていくことも必要ではないか。（材の与え方も大切ではないか）と思う。※パネリストの方は何の役割ですか。参加者の思考を深めるための協議にすることではないのですか。批判し合いに対し「盛り上がり」との表現は不快です。

6 概ねよい。

7 モデル文を教師が用意する大切さを改めて認識できた。

8 授業内容についての検討をしたかった。

10 登壇者によって持ち時間が違うのはどうかと思った。司会の進め方をしっかりやってほしい。今日の論点は「書く指導」「見本文の是非」「書く目的」（対象）についてであって、市毛勝雄批判ではなかったはずだと思った。

13 例文が素晴らしかっただけに、手元に残る形にしていただきたかった。盛り上がりがあったのは良かったが、懇親会ですればよい話だった。もっと授業者の話を書きたかった。

14 論理や論証についての考え方について登壇者の意見の違いが見られた。（市毛先生の論理についての考え方について、大内先生の思いが出されたが、市毛先生が誰よりも多く先行文献を研究なされ、80歳を過ぎても数多くの授業実践を行われ、ご自分の理論の正しさを実証なされたということを書いておきたい。）

15 大内先生の発言に大変驚き、失望しました。市毛先生がお亡くなりになった途端、本人不在の中であのような発言は失礼だし、内容もまちがいでいただいだと思いました。市毛先生自身、授業をし続け、現場の声を聞き論を発表してきました。神田支部の会員も日々、小・中・高・大学で授業実践を繰り返し、市毛先生の論の有効性を立証し、改善をしながら実証できることを論文に記しています。ただの引き写しではありません。

18 論理的思考力を育むための手立てを考えていきたいです。また、論理的とは？ 思考力とは？ について深めなければいけないと感じました。

19 4年生国語「アップとルーズで伝える」はアップとルーズが比較されている文だと思います。「4年で比較は難しいの」のでしょうか？

21 改めて、題材の工夫が素晴らしかったと感じました。「比較」が難しいという話がありましたが、理科で3年生で「比較」がキーワードとなっていますので、子ども達は「できる」と私も思いました。「論理的」についてはまた考えてみたいです。

23 対比、（類比）について、積極的に授業に取り入れたいと思いました。白熱した議論をありがとうございました。

24 例文を出すことで、子ども達の書くことへの苦手意識はなくなりつつあると感じました。真似をしてみたいと思いました。ありがとうございました。

【授業Ⅲ 説明文「未来に生かす自然のエネルギー」の提案授業とその検討】

（１） 授業3（授業者：白石範孝）

1 一度参観したいと思っていた白石先生の授業はやるべきことが明瞭だったと思う。参観できて良かった。

3 学習用語を教え、力をつけさせる白石先生の授業は大変勉強になりました。

4 子どもから出た「自然エネルギー」という

言葉を見事に最後へつなげていたことが本当に勉強になりました。

5 子どもの「困った」から出発しているので、子どもが実感をもって学んでいる様子が分かった。「教えて考えさせる」ことは大切だと思う。「要約そのもの」が「何のためにあるのか」が子どもから出て来た（この文を読んだことのない人にもどんな話かが簡潔に分かるように）ことに驚いた。

6 まさに白石流の授業であった。

7 かぎかっこから更に繰り返しに着目してキーワードを探したのが明確で分かりやすかった。

8 くり返されている言葉に着目する技法は自分も白石先生の本を見て研究授業でやったが、うまくいかなかったところだった。今回それを生で見れたのは自分にとってとても大きな経験になった。

11 学習用語をきっちり押さえ、それを積み重ねていくというのは、大変大切なことだと思います。私も日頃実践させていただいています。大変論理的で分かりやすかったです。

12 時間が少なくて要約を強引にまとめる力におどろきました。

13 用語をきっちりと押さえ、授業を進めていたため、言語技術が身に付くほかに、国語の知識もきっちりと身に付くためとてもよいと思った。

14 くり返しの言葉やかぎかっこをもとに要約するという学習だった。くり返しやかぎかっこというよりキーワードに目を向けさせる指導の方がよいのではないかと思った。説明文なので文章構成にも目を向けさせたい。

15 ①「要約とは何か」を小6の児童が答えるのは難しいと思いました。書き方を教えずにいきなり「書いてみて」と言っても普通の小学生はほとんど書けずに前の方の段落を写すのでせいっぱいだと思います。②要約に使うキーワードをバラバラに出させましたが、大変難しいと思いました。要約は字数制限を示し、全体の文章構成や段落をとらえないと書けないと思いました。「 」がキーワードについている親切な文章は中学・高校・大人の記事になるとどんどん減っていくので、内容から取り出せないと思えないと思いました。

16 用語をおさえておくことが、課題把握の上でも重要だと感じました。他の説明文における重要語句の見つけさせ方を考えていきたいと思

いました。

20 26段落からなる長い文章をくり返し出てくるキーワードを活用して「要約」を学習する授業は「学習用語」を広め確立された白石先生ならではの授業でした。本授業で学んだことを次の「要約」に活用できるか見てみたいです。

21 学習用語の習得は重要であると考えていましたが、改めて言葉に敏感にならなければと感じました。「くりかえし」「かぎかっこ」と子どもたちにとってもわかりやすく技術を提示していたなと思いました。実践してみたいと思います。

23 昨年、5年生の担任をし、「生き物は円柱形」の要旨をまとめるのに、とても苦労しました。言語技術が充分でなかったと反省しました。言語技術を磨いていきたいです。

24 要約を書くヒント、くりかえしの言葉→「 」を見つけることがゲームのように言葉に目がいくと感じました。要約はとても私自身も難しいと思うところです。見つけることを手に読みを深めていきたいと思いました。

(2) 提案授業の検討

(司会：中村孝一、授業者：白石範孝、登壇者：公野公司郎、高木輝夫、照井孝司)

4 子どもに要約させ、要旨を書かせるとき、重要語句を見つけさせることは本当に難しいと感じている。今日の授業はそのための一つのヒントとなった。

5 文章全体をとらえる力は大切な言語技術であると思った。

6 概ねよい。

7 系統的に考えることで「用語・方法・原理原則」がさらにレベルアップすると感じた。

8 重要語句を見つけることは確かに子どもたちだけでやっていくのは難しい。だから、それを伝えるのは大切だと感じた。

13 子どもから様々な考え方が生まれそれが思考にズレとなり、そのズレこそが子どもの「知りたい！」であり、問いになるという言葉に感心した。

14 要約するために構成やキーワードをとらえさせ、そこから要約させるか、くり返しやかぎかっこという点からとらえさせるか意見が分かれた。要約のさせ方について考えさせられた。

21 国語科の問題解決学習の話が印象的でした。学習問題を考えて授業に臨んでいます。教師が言語技術をもち、それを教え解決に導くというのは新鮮でした。またそれは、教師の教

材研究であったり、言語技術であったりが必要だと感じました。

24 どの学習でも既習事項を確認することが大切だと思いました。子どもたちから出る「問い」がたくさん出るといいということを学びました。

【授業Ⅳ 文学「海のいのち」の提案授業とその検討】

(1) 授業Ⅳ（授業者：京野真樹）

1 脇見出しを書くために文章に立ち返るというアプローチが大変おもしろい実践だと思った。また、言葉をきちんと押さえていたところも素晴らしいと思った。子どもの考えが深まっていきそうな、（時間があればもっと深まるだろう）展開が今日の授業の中で一番興味深かった。

2 比喩に子どもたちがもぐっていけるような問いかけが多く、文学からかけ離れていきそうで、本文にかえていく展開が痛快でした。「えっ、そんな感じで読んだの!？」の考えや思いのズレがそのまま学習問題に直結する（以下不明）。

4 どんな脇見出しが書けていれば評価できるのか。という疑問がわきました。

5 なぜ新聞記事の脇見出しなのか、そもそもの設定が疑問である。おそらく、協議で秋田の先生がおっしゃったことと同じ、（おとうの人物や文章の正しい解釈の読み取りが目的であると思うが。）

6 とても質の高い授業である。

7 脇見出しや教師の発問が面白く、こういったやり方もあるのかと思った。

8 ただ単に言語活動といっても、京野先生の言語活動は子どもへの意図があり、今までの言語活動とはちがった。教科書会社の関係もあり、「海のいのち」を初めて読んだが奥深いと思った。

11 脇見出しを作らせたので、それが最後まで生きるように、「海のいのち」の新聞を作ったらどうでしょうか。「社説」みたいに、自分の感想を書いて作品に対する自分の感想を書いて、作品に対する自分の考えも書く欄を設けて……。

12 とても授業が上手だった。おとうの死を最後の最後に子どもに伝えた方がいいのではないかと思います。

13 脇見出しをつくるという切り口がおもしろい。音読をしている時、細かくストップをかけて意味や解釈を確認しながら進めていて、音読を効果的につかえていると感じた。

14 脇見出しを書くという設定だったが、文学的文章の指導としては、わかりにくいと感じた。活動主義的で、子どもたちに文学を読む技術や力を身につけさせることができるか疑問に思った。

15 なぜ新聞作りなのかわかりませんでした。学力の高い児童が思いつきに近い発言をしていく流れに見えてあまり参考になりませんでした。

18 「海のいのち」を新聞記者としてというアプローチが新鮮で面白かったです。言葉一つ一つに注目していくことで文に、言葉にこだわることにつながると感じました。

21 脇見出しという切り口で作品にせまっております、面白いなと思って見ました。先生の発問が子どもを立ち止まらせ、深く読ませるような形となりました。私もついつい子どもと同じ立場で考えてしまいました。

23 独創的な取り組みで感銘を受けました。立場を変えて考えるということが子どもの思考を活発にすることを思いました。今年は6年の担任なので「海のいのち」について授業をするのが楽しみになりました。

24 言葉に着目していました。現在の子どもたちは知っているようで知らない言葉がたくさんあると感じているので、言葉は大切だと改めて感じました。

(2) 提案授業の検討

（司会：大内善一、授業者：京野真樹、登壇者：國府田祐子、鶴田清司、大内善一）

4 「生涯最大のしくじりが最後のしくじり」←先生の解釈、文学作品の読み方、古典として読む→取材して読む、「目的のために読む」、入り口を軽くし、オープンエンドで終わる。読ませ方についても考えさせられました。

5 授業者の今回の解釈は今まで思ってもみなかったものである。

6 概ねよい。

7 おとうの死は美談かと思っていたが、客観的にとらえるとそうでもないかもしれないという解釈の違いが勉強になった。

8 鶴田先生の言うように教材研究も大切。

13 文学作品を全く違うものにして表現するこ

とで、子どもが文学的にとらえようとするという点がおもしろいと感じた。

15 大内先生が司会者でありながら、考えや意見を話しすぎだと思いました。

19 教科書教材を読み味わうのが本来の目的ではなく、日常生活の今後の読書に教科書で得た活動で学んだ技術を、意識せずとも生かして味わっていくのが目的ではないかなあと感じました。

21 言語技術は明確になっていたか、という話を聞いて確かにそうだなと思いました。学習のふりかえりで何を学んだか書かせると、言葉に注意して読むとくわしい人物像を知ることができた、となるのではと思います。

23 ホットシーティング、インタビュー等、切り口を多く教えていただきました。子どもの実態に応じて出していきたいと思います。

24 言葉を大切にすることが大切だと学びました。

【V 日程・会場。運営について】

4 30分の授業、とてもテンポよく見れ、興味深かったです。

5 余裕のある日程の割に、内容が濃い会であると感じた。会場に小さい子どもがいたが、会の性質からしていかなものかと思う。

6 よい。

7 30分×4本の授業だったが、45分×3本でも良いかと思う。30分×2—15分休けい30分×2でも良い。

10 常葉大学が新しくなったが、瀬名キャンパスだと、附属小から近いからかと感じた。よい会場でよかった。日程は、6月後半だと、成績の関係で難しい。できれば7月後半がよい。

14 快適な会場でした。運営も適切でした。授業も実際に子どもたちを対象にできてよかったと思う。同じ教材を二人の指導者がそれぞれ行うなどがあれば、論理的文章や文学の指導技術がより明確になるような気がする。

16 事務局の皆さんのおかげ様で多くの学びがありました。大変お世話様でした。

18 ありがとうございました。

21 短い時間でしたが、濃い内容で面白かったです。

25 すべてとても勉強になりました。

【VI この大会をどこで知りましたか。該当する箇所に○を付けてください。】(複数回答

可)

1 学会事務局通信	10	15	22										
2 案内やチラシ	1	9	10	11	13	14	18	25					
3 雑誌や新聞の広告													
4 知人の紹介	3	4	5	7	8	9	10	12	14	18	21	23	24
5 インターネット	6	10	20										
6 その他	17												

【VII その他】

5 「こくち一ず」からの申込がどこにも反映されておらず、不安です。(個人情報を入力しているの)。身につけさせたい言語技術とはと改めて感じた。運営の方々ありがとうございました。

6 実際の児童を相手に授業提案をして下さったことは大変すばらしい。感謝します。

7 授業検討では、もう少しフロアーから意見が出る(出やすい)工夫が何かあると良い。

9 大変勉強になりました。ありがとうございました。

11 ありがとうございました。大変勉強になりました。

12 久しぶりによく考え、授業に対して前向きになることができました。

14 授業Ⅱの検討会で、市毛先生の感情的な批判が出されたことにつかりした。授業の指導技術ということについての討論であってほしいと思った。

16 ・自分達の提案に対してもっと疑問をもつべきだと考えました。どんな提案にも必ず改善すべき問題点があるのですから。このままではこの学会の深まりにつながっていきません。
・託児の検討をお願いしたいです。きっと学びたくても学べない教師がいます。どうぞ宜しくお願いします。

17 日頃現場で行っている実践と、今回の話がどのように結びついているのかを考えるよい機会となりました。紹介していただいた中村先生に感謝致します。会場の座席も参観しやすく快

適でした。一つの授業に対して様々な見方を
する話を聞き、果たして自分はどこへ向かって
いくのか、実践を通して選択して創り出して
いきたいと思います。

19 ありがとうございます。今後の子ども
たちの授業に生かしていきます。

20 昨年度、名古屋に引き続き2回目の参加
です。授業提案・検討、充実しており、毎回勉強
になります。私自身どうしても「文学」「説明
文」の授業に力が入りますが、今年の「話す・
聞く」「書く」は大変楽しく興味を引くもので、
ぜひ子どもといっしょに授業をやってみたく
なるものでした。ありがとうございます。

23 大変、大変勉強になりました。

24 教師自身の言語技術を高めることが大切
な事だと改めて感じました。学校でぜひ実践
してみたいと強く思いました。ありがとうございます。